

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
地域医療基盤開発推進研究事業

臨床研修の到達目標と連動した研修プログラム及び評価方法・指導方法  
に関する研究

平成28年度 総括研究報告書

研究代表者 福井 次矢

平成29（2017）年 3 月

# 目 次

I. 総括研究報告	1
臨床研修の到達目標と連動した研修プログラム及び評価方法・指導方法に関する研究 福井 次矢	
II. 添付資料	4
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	10

厚生労働行政推進事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
総括研究報告書

臨床研修の到達目標と連動した研修診療科に関する研究

研究代表者 福井 次矢 聖路加国際大学 聖路加国際病院 院長

**研究要旨：**本研究は、平成26年度及び平成27年度の厚生労働科学研究の成果を踏まえ、① 臨床研修の到達目標に関連する追加的なデータ収集及び目標案について検討すること、②作成した到達目標の達成を可能とする方略を立案し、研修医を適切に指導・評価するための手引きまたはガイドラインの作成について検討すること、を目的として行われた。

研究班を9回開催し、前年度に作成された到達目標(案)のブラッシュアップを繰り返した。この間、平成28年度中に4回開催された「臨床研修制度の到達目標・評価の在り方に関するワーキンググループ」(以下、「ワーキンググループ」)および3回にわたる医道審議会医師分科会医師臨床研修部会(以下、「臨床研修部会」)へのプレゼンテーションを通じて提示された様々な意見にも十分配慮して、最終案としての到達目標(改訂版)を作成し、平成29年3月23日に開催された平成28年度第4回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会にて承認された(別表1に示す)。

到達目標(改訂版)の構成は、前文(医師は、病める人の尊厳と公衆衛生に関わる職業の重大性を深く認識し、望ましい医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、医師としての基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務を遂行できる横断的な資質・能力を習得する。)に続いて、A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)、B. 資質・能力、C. 基本的診療業務、という3つの大項目があり、Aには4つの中項目(1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 2. 利他的な態度 3. 人間性の尊重 4. 自らを高める姿勢)、Bには9つの中項目(1. 医学・医療における倫理性 2. 医学知識と問題対応能力 3. 診療技能と患者ケア 4. コミュニケーション能力 5. チーム医療の実践 6. 医療の質と安全管理 7. 社会における医療の実践 8. 科学的探究 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢)、Cには4つの中項目(1. 一般外来における診療 2. 病棟における患者ケア 3. 初期救急への対応 4. 地域医療連携)が挙げられている。さらに、各中項目には、小項目あるいは説明文が記されている。

今回の改訂到達目標は、現行の到達目標とは3つの点で大きく異なる。第一に、医師としての望ましい行動や態度、その基盤となる基本的価値観(プロフェッショナリズム)、対人関係能力などが重視された内容となっていること、第二に、医学や診療に特有の知識や技術だけでなく、人格や行動規範といった人間の全体的な能力が到達目標となっていて、1990年代以降の教育学で主として「コンピテンシー」と表現されている概念に則っていること、そして第三に、大学医学部卒前教育から卒後臨床研修、専門医養成研修、生涯学習という医師としてのキャリアの全ての学習・研修段階に適用される共通の到達目標とすべく、各段階の学習・研修に関わる省庁・団体・学会・委員会などとの調整のもとで作成されてきたこと、である。この第三の点については、文部科学省の「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」および「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」、日本医学教育学会の「医学教育の一貫性委員会」と緊密な連絡を取って調整した結果、大学医学部卒前教育と卒後臨床研修の到達目標の整合性が図られた(別表2に示す)。

方略と評価(および修了基準)については、分担研究者、研究協力者の間での意見の隔たりが大きく、最終版の作成には至っていない。平成29年度末には最終版とすべく、「ワーキンググループ」、「臨床研修部会」の意見をも伺いながら、議論を重ねる予定である。

**研究分担者**

高橋 理	聖路加国際大学 臨床疫学センター センター長
鈴木 康之	岐阜大学 医学教育開発研究センター 教授
前野 哲博	筑波大学 医学医療系臨床医学域 教授
高村 昭輝	金沢医科大学 医学教育学 クリニカルシミュレーションセンター 講師/副センター長
高橋 誠	東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科 講師

## A. 研究目的

平成25年12月にとりまとめられた医道審議会医師分科会医師臨床研修部会(以下、「臨床研修部会」)による『臨床研修部会報告書』において、医師の卒業臨床研修の到達目標と研修医の評価を見直す必要性が指摘された。これを受け、臨床研修部会の下に「臨床研修制度の到達目標・評価の在り方に関するワーキンググループ」(以下、「ワーキンググループ」)が設置され、到達目標と評価に関する見直しの議論を行っている。また、上記報告書において、研修を行う診療科とその研修期間についても到達目標と一体的に見直すことが望ましいとされており、研修診療科とその期間を含めた研修の方略についても検討の必要性が指摘されている。

本研究は、平成26年度及び平成27年度の厚生労働科学研究の成果を踏まえ、「ワーキンググループ」の議論を踏まえ、①臨床研修の到達目標に関連する追加的なデータ収集及び目標案について検討すること、②作成した到達目標の達成を可能とする方略を立案し、研修医を適切に指導・評価するための手引きまたはガイドラインの作成について検討すること、を目的とする。

## B. 研究方法

平成28年度中に研究班を9回開催し、前年度に作成された到達目標(案)をたたき台に、ブラッシュアップを繰り返した。この間に4回開催された「ワーキンググループ」および3回にわたる「臨床研修部会」へのプレゼンテーションを通じて提示された様々な意見にも十分配慮して、議論を重ねた。

大学医学部卒前教育から卒業臨床研修、専門医養成研修、生涯学習という医師としてのキャリアの全ての学習・研修段階に適用される共通の到達目標とすべく、各段階の学習・研修に関わる省庁・団体・学会・委員会などと調整を図った。

(倫理面への配慮)

すでに公表されている既存の調査データや文献情報に基づいて、研究分担者・研究協力者間で討議し、到達目標・方略・評価案を作成するものであり、個人情報とは扱わないため、倫理的な問題は発生しない。

## C. 研究結果

最終案としての到達目標の構成は、前文(医師は、病める人の尊厳と公衆衛生に関わる職業の重大性を深く認識し、望ましい医師としての基本的価値観(プロフェッショナルリズム)及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、医師としての基本的な価値観を自らのものとし、基本的診療業務を遂行できる横断的な資質・能力を習得する。)に続いて、A. 医師としての基本的価値観(プ

ロフェッショナルリズム)、B. 資質・能力、C. 基本的診療業務、という3つの大項目があり、Aには4つの中項目(1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 2. 利他的な態度 3. 人間性の尊重 4. 自らを高める姿勢)、Bには9つの中項目(1. 医学・医療における倫理性 2. 医学知識と問題対応能力 3. 診療技能と患者ケア 4. コミュニケーション能力 5. チーム医療の実践 6. 医療の質と安全管理 7. 社会における医療の実践 8. 科学的探究 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢)、Cには4つの中項目(1. 一般外来における診療 2. 病棟における患者ケア 3. 初期救急への対応 4. 地域医療連携)が挙げられている。さらに、各中項目には、小項目あるいは説明文が記されている(別表1のIに示す)。

この最終案は、平成29年3月23日に開催された平成28年度第4回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会にて承認された。

方略と評価(および修了基準)については、分担研究者、研究協力者間で意見の隔たりが大きく、最終版の作成には至っていないが、平成28年度末時点での案を別表1のII、III、IVに示す。

なお、文部科学省の「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」および「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」、日本医学教育学会の「医学教育の一貫性委員会」と緊密な連絡をとって調整した結果、大学医学部卒前教育と卒業臨床研修の到達目標の整合性が図られた(別表2に示す)。

## D. 考察

今回の到達目標(改訂版)は、2004年の臨床研修必修化以降用いられてきた現行の到達目標とは3つの点で大きく異なる。第一に、これまで以上に、医師としての望ましい行動や態度、その基盤となる基本的価値観(プロフェッショナルリズム)、対人関係能力などが重視された内容となっていることである。

第二に、医学や診療に特有の知識や技術だけでなく、人格や行動規範といった人間の全体的な能力が到達目標となっていて、1990年代以降の教育学で主として「コンピテンシー」と表現されることの多い概念に則っていることである。この概念を、今回の改訂版では資質・能力と表わすこととした。

第三に、大学医学部卒前教育から卒業臨床研修、専門医養成研修、生涯学習という医師としてのキャリアの全ての学習・研修段階に適用される共通の到達目標(水平軸-広さ-についての共通化であり、垂直軸-深さ-は各段階で異なる)とすべく、各段階の学習・研修に関わる省庁・団体・学会・委員会などとの調整を行った。その成果として、卒前の医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)と整合性が図られたことの意義は大きい。

今後は、専門医養成プログラム、日本医師会の生

涯教育カリキュラムとも整合性を図れるよう、努力を重ねる必要がある。わが国の医師全員が、医師としてのキャリアの段階や年齢を問わず、共通の到達目標を意識するようになれば、医師同士のコミュニケーションの促進や教育プログラムの効率化など、益するところは大きいものと思われる。

#### E. 結論

平成32年度に施行される3回目の臨床研修制度見直しに用いられる到達目標（改訂版）を作成し、平成29年3月23日に開催された平成28年度第4回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会にて承認された。

到達目標の大項目については、文部科学省のモデル・コア・カリキュラム（改訂版）と整合性が図られた。

方略と評価については、分担研究者、研究協力者間での意見の隔たりが大きく、最終版の作成には至っていない。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

福井次矢「医師臨床研修におけるプロフェッショナルリズム関連到達目標の検討状況」第48回日本医学教育学会大会、大阪医科大学、2016年7月29日

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

臨床研修の基本理念（医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令）

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

## I 到達目標

医師は、病める人の尊厳と公衆衛生に関わる職業の重大性を深く認識し、望ましい医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、医師としての基本的な価値観を自らのものとし、基本的診療業務を遂行できる横断的な資質・能力を修得する。

### A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

#### 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

医師としての社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、変化する社会と限りある資源に配慮した公正な医療の提供と公衆衛生の向上に努める。

#### 2. 利他的な態度

患者の意向や自己決定権を尊重しつつ、患者の苦悩・苦痛の軽減と福利の改善を最優先の務めと考え行動する。

#### 3. 人間性の尊重

個々人の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って、患者や家族に接する。

#### 4. 自らを高める姿勢

医師としての自らの言動を常に省察し、資質・能力の向上に努める。

### B. 資質・能力

#### 1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳と生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、適切に管理する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

#### 2. 医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の中で必要な知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 主な症候について、鑑別診断と初期対応ができる。
- ② 患者に関する情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

#### 3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた最善の治療を、安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

#### 4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、主体的な

意思決定を支援する。

- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

## 5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的を理解する。
- ② チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

## 6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応ができる。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める。

## 7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

## 8. 科学的探究

医学と医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学医療の発展に寄与する。

- ① 医療上湧き上がってきた疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

## 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために常に省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける

- ① 早い速度で変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職を教え、共に学ぶ。
- ③ 国内外の政策や医療上の最新の動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等）を把握する。

## C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、単独での診療を任すことができる。

### 1. 一般外来における診療

症候などの臨床問題を適切な認知プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患のフォローアップができる。

### 2. 病棟における患者ケア

入院患者の一般的・全身的な診療とケアができる。

### 3. 初期救急への対応

頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対応できる。

### 4. 地域医療連携

地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健に関わる種々の施設や組織と連携できる。

## II 実務研修に関する方略

### 研修期間

研修期間は合計2年以上とする。協力型臨床研修病院又は臨床研修協力施設と共同して臨床研修を行う場合にあつては、地域医療や各診療科との関係に配慮しながら、全体の8月以上は、基幹型臨床研修病院で研修を行う。

### 臨床研修を行う分野

#### 特定の医療現場の経験

1. 一般外来診療
2. 慢性期・介護施設（地域包括ケア）
3. 周産・小児・成育医療
4. 精神保健・医療
5. 緩和ケア・終末期医療
6. 地域保健
7. 予防医療

### 経験症候・疾病

患者の症候、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づいた臨床推論を行う能力、および頻度が高い、あるいは緊急を要する病態の初期診療を的確に行う能力を修得する。

#### 1. 症候（58）

ショック、急性中毒、全身倦怠感、不眠、食欲不振（食思不振）、体重減少・るい瘦、体重増加・肥満、浮腫、リンパ節腫脹、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害、失神、言語障害、けいれん発作、視力障害・視野狭窄、結膜の充血、聴覚障害、鼻漏・鼻閉、鼻出血、嘔声、胸痛、動悸、心停止、呼吸困難、咳・痰、誤嚥・誤飲、嚥下困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、胸やけ、腹痛、腹部膨満、便通異常（下痢・便秘）、肛門・会陰部痛、熱傷、外傷、褥瘡、背部痛、腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれ、血尿、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、乏尿・尿閉、多尿、興奮、不安、抑うつ、流・早産および満期産、成長・発達の障害、月経異常

#### 2. 疾病（26）

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、認知症  
心筋梗塞、心不全、大動脈瘤、高血圧  
肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、COPD  
胃癌、消化性潰瘍、胆石症、大腸癌  
腎盂腎炎、尿路結石、腎不全  
高エネルギー外傷・骨折・捻挫  
糖尿病、脂質異常症  
気分障害、統合失調症、依存症（ニコチン、アルコール等）

### 診察・検査・治療手技

#### 1. 医療面接

#### 2. 身体診察

#### 3. 基本的臨床検査

一般尿検査、採血、便検査、血算・白血球分画、血液型判定、動脈血ガス分析、心電図、肺機能検査、超音波検査

#### 4. 基本的手技

採血・注射、体腔穿刺（胸腔、腹腔、腰椎）、中心静脈カテーテル挿入、気道確保・気管挿管、人工呼吸、除細動、胃管挿入、局所麻酔、皮膚縫合

### III 到達目標の達成度評価

到達目標の達成度は、「医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」、資質・能力及び遂行可能業務について評価される。

#### A. 医師としての基本的な価値観（プロフェッショナリズム）

指導医をはじめとする多職種による 360 度評価などの観察記録に基づく。

#### B. 資質・能力

##### 1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

##### 2. 医学知識と問題対応能力

発展し続ける医学の中で必要な知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

##### 3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、意向に配慮した診療を実践する。

##### 4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者や家族と良好な関係性を築く。

##### 5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

##### 6. 医療の質と安全の管理

患者にとって高質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

##### 7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

##### 8. 科学的探究

医学と医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学医療の発展に寄与する。

##### 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

#### C. 基本的資料業務

Workplace-based Assessment や事例報告、チェックリストなどを用いて、総合的に評価する。

##### 1. 適切な認知行動プロセスを経た臨床問題の解決

- ①適切な病歴聴取ができる。
- ②病歴を踏まえて、必要な身体診察ができる。
- ③優先度に配慮して臨床検査を施行できる。
- ④病歴、身体所見、検査の結果を踏まえて、鑑別すべき疾患を列挙できる。
- ⑤専門医に紹介すべき病態・疾患を判断し、実行できる。
- ⑥自ら継続管理してよい病態・疾患を判断できる。
- ⑦エビデンスに基づいた標準的な疾患マネジメントができる。

##### 2. 一般外来および病棟における患者ケア

一般外来及び病棟において、患者の一般的な管理ができる。

##### 3. 初期救急への対応

緊急性の高い病態、頻度の高い症候と疾患に関する初期対応ができる

##### 4. 地域医療連携

地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健に関わる種々の施設や組織を活用できる。

## IV 修了基準（現行）

- ・ 休止期間が 90 日以内であること
- ・ 研修診療科とその期間を満たしていること
- ・ 研修目標を達成していること
- ・ 臨床医としての適性（安心・安全な医療の提供、法令・規則の遵守）があること

## 臨床研修到達目標と医学教育モデル・コア・カリキュラムの関係

医学教育モデル・コア・カリキュラム(卒前)	臨床研修の到達目標(卒後)
医師として求められる基本的な資質・能力	医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)
1 プロフェッショナリズム	1 社会的使命と公衆衛生への寄与
	2 利他的な態度
	3 人間性の尊重
	4 自らを高める姿勢
	資質・能力
2 医学知識と問題対応能力	1 医学・医療における倫理性
3 診療技能と患者ケア	2 医学知識と問題対応能力
4 コミュニケーション能力	3 診療技能と患者ケア
5 チーム医療の実践	4 コミュニケーション能力
6 医療の質と安全の管理	5 チーム医療の実践
7 社会における医療の実践	6 医療の質と安全の管理
8 科学的探求	7 社会における医療の実践
9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	8 科学的探求
	9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
鈴木 康之	専門研修における指導 医の役割：日本小児科 学会での取り組み	日本周産期・ 新生児医学会 雑誌	52巻5号	1740-1742	2016